

SHIN CLUB 60

(株)辰 東京都渋谷区渋谷1-24-4 シブヤ百瀬ビル7F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450 URL:http://www.esna.co.jp



タカハシクリニック1階吹き抜けから待合を望む © HIRAI PHOTO OFFICE

今月のトーク/monthly talk

新しい都市型クリニック

大きなスクリーンが、受付の上方に据付けられています。プロジェクターから映し出される映像を楽しめるように、2階には階段状の座席がまるで映画館のように並んでいます。ここが精神科のクリニックとはちょっと見ただけではわかりません。今月は、このたび辰が増築工事を行った「タカハシクリニック」のお話をお届けします。

長い不景気のために突然厳しい環境にさらされることも珍しくない世の中です。学校や職場で身体と同じように、時に心を病んでしまう人々も少なくありません。

中には重篤な病状が高じて入院が必要な患者さんもいますが、ほとんどの方は投薬などで精神状態をコントロールしながら社会復帰していきます。しかし通院しながらも、対人関係がまだうまくいかず、いきなり会社や学校に戻って元気に活動するまでには至らないという人たちには、デイケアプログラムで徐々に自分を取り戻していくという方法があります。

この「タカハシクリニック」は東京23区内で初めて精神科のデイケアクリニックを開始し、平成9年には大規模施設の認可も受けたクリニックです。昼間だけでなく夜間も豊富なプログラムを用意して、都市型クリニックの新しい形を進めています。

デイケアのスタッフには、介護士、療法士だけでなく、ジャズダンスやヨガの講師もいます。これはは、回復のためのプログラムとして必要だとい

考えに基づいています。院長の高橋龍太郎先生は、著作も多く、ラジオ番組の相談コーナーも持たれていて、8年前に新築された既存のクリニックには数多くの患者さんが治療を受けるためにやってくるようになりました。スタッフも増えて別のビルに控え室を借りるなど、いろいろと手狭になってきたため、機能面での改善を主な目的として今回の増築は計画されました。

鉄骨造(一部SRC造)5階建ての建物外観は軽快な印象です。ガラス張りのエントランスを入ると、アスファルトタイルの床。受付の奥が診察室です。全体にとってもオープンな雰囲気、建物は「駅」をイメージしてデザインされたそうです。現実社会に疲れた人が少しの間休息のために訪れ再び現実社会へ戻っていく—そんな場所を象徴しているようです。

既存建物と関係する工事については、クリニックの営業に支障のないように、土日を中心に行われました。「上階から既存部分と増築部分とつなげる工事を順次行いましたが、1階の営業部分を既存の2階に上げて引越しをしてもらってから、最後の1ヶ月に1、2階の増築工事を仕上げるという工程の調節が難しかったです(辰 中川主任)。」とのことでした。改修工事や増築工事では、新築工事に比べてさらに細かい対応が求められます。

院長の高橋先生は、現代アートのコレクターとしても有名な方です。若いアーティストの作品を多く収集し、また支援していることで知られています。先生の著作物を読むと、ナイーブな感性の若い人々への暖かいまなざしを感じずにはられません。実際の治療に収集作品をヒーリングとして利用することはないそうですが、精神医療というお仕事にご自身の豊かな感性が影響していないはずはありません。

最近心の均衡を乱した人の事件が新聞やTVをにぎわしていますが、入院だけでなく、タカハシクリニックのような機能的な施設、つまり患者さんの自己回復・社会復帰へ向けての努力を、よりバラエティに富んだ形で多角的にサポートする施設が増えていくことが求められていると感じました。

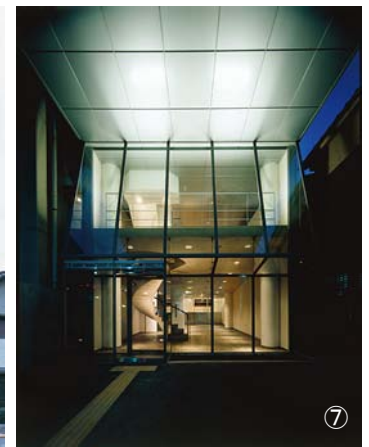
作品介绍/monthly architecture 11

タカハシクリニック

正確な解決と個性—タカハシクリニック

一方で機能的に破綻しかけていた建物を徹底的にリストラクチャリングし、正確な機能的整理を行なうこと、そしてまたクリニックの新しい顔として開放的でありながら散漫でない場を作ること、これを同時に実現することが求められていた。結果として二層分のピロティー空間の一部に斜めのコンクリートスラブを挿入し、その奥に立体的な吹き抜けを取る構成を選択した。吹き抜け上部のスクリーンに対する視野を確保する階段状の待合席、吹き抜けの下部にある受付からの待合全体の視認性、エントランス部分の高い天井高と吹き抜けに向かう密度のある空間、これらが無駄なく実現している。都市型の建物にありがちな狭い間口と増築であるがゆえの階高の制約という条件の中でベストの解決を目指し、そのことによってここだけにしかない特別な空間を作りたと思っていた。

(日埜直彦)



①左手に受付とスクリーン、右手に二層に分かれた待合室。②2階待合室。③2階階段口とエレベーターホール。④3階ダイケアルーム。⑤1階スラブ下のロビー。⑥全景。既存建物はこの建物の奥にあり別の道路に面していた。⑦正面から見た建物1、2階部分の夜景。⑧打ち放しのコンクリートの螺旋階段が降りてくる。型枠大工の仕事は見事な仕上がりに。写真撮影:③④編集部。それ以外①②⑤⑥⑦⑧は平井広行

所在地: 東京都大田区
構造: 鉄骨造(一部SRC造)
用途: 診療所
設計: 日埜直彦
/ 日埜建築設計事務所

© HIRAI PHOTO OFFICE

M邸改修工事

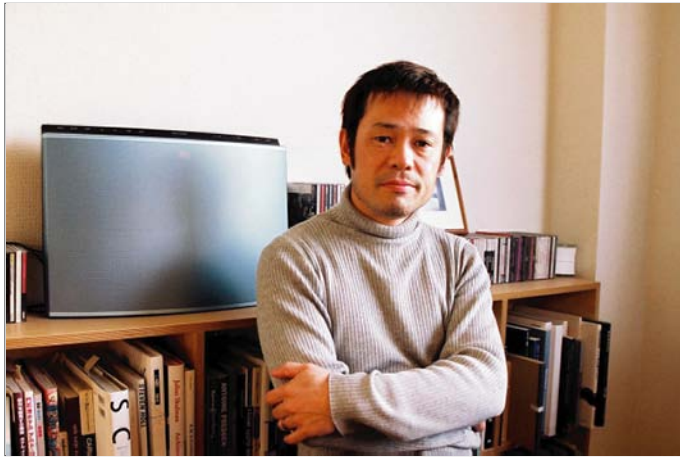
音楽好きの夫婦の家

四谷の閑静な住宅街に建つ、多世帯住宅の一部の改修工事である。工事は、増床、断熱を命題として始まった。「増床」については、既存の造作家具の配置からキッチンを開放することで、隣接する部分に子供部屋を確保し、結果的に「広く感じる」空間を創出できた。「断熱」については、RC造3層の住宅の3階部に位置するため、日照に恵まれているものの、夏場の室温上昇が考慮されなくてはならず、ダクトスペース及び断熱層としての天井懐を確保しながら、屋上に断熱材を敷き詰めた。さらに、例えば点検口の再設置などに代表される、既存の空調システムのメンテナンス性能の改善を行った。可能な限りメンテナンスのしやすさを心がけ、最終的には、トイレ・バスルームを含め、ほぼ全面リフォームすることとなった。住まい手としてのオーナーの経験と意見を重視し、既存の雰囲気を持続した部分とシックな色合いに再構成した壁・床材、建具・家具により、新築のような仕上がりに落ち着いた。

所在地: 東京都新宿区
構造: RC造 地上3階
用途: 専用住宅
改修設計: 大森伸一



①斜線規制により斜めになっている壁の窓、流しの前にデザインされた照明がモダンなキッチンを演出。②その反対側のリビング部分。BOSEのスピーカーは既存。奥様はピアノ、ご主人はサクスを嗜む。③左側の建具に合わせ、正面に新たに収納を設けた和室。④洗面所・バスルーム・トイレも全面改修した。



桑原 聡(くわはらさとし) profile

1960年 東京都生まれ
 1984年 東京理科大学工学部建築学科卒業
 1986年 東京芸術大学美術学部大学院建築科修了
 1986年 株式会社リクルートコスモス設計監理部勤務
 1992年 株式会社コスモスマリア設計部勤務
 1994年 桑原聡建築研究所設立
 2000年 事務所をアトリエとオフィスに分割、移転
 2002年 アトリエを港区台場に移転

一辰は、「新宿M邸改修工事」「神宮前5179」ほか、改修工事も多数施工していますがお客様とはどのような出会いが一番多いのですか。

桑原:以前建てた方からのご紹介が多いですね。比較的言われたとおりにがちがちにやるタイプですよ。前いたところも不動産会社でしたから。

—そうですね。

桑原:当時は学校を出て、すぐに大きなものを20とか30とかやらせてもらって、それはそれでよかったのですが、一人で設計をするわけではなかったら、自分自身でデザインしていきたい気持ちがずっと高まっていきました。

—独立されてからは?

桑原:いつか集合住宅の調査などを手伝っていました。もともと大学でも研究室が集合住宅についてやる場所でしたから、集合住宅での住み方の調査を行って実態を把握していく、という感じでしたね。

—そういう中で、感じられたことがあったのでしょうか。

桑原:そうですね、僕はその中でどうしても「大きなもの」に対する嫌悪感が出てきて、大きな団地なんかの調査をしていくうちにほんとに巨大な集合住宅の問題点を感じたんです。殺伐とした環境を変えていきたいという気持ちがおきて、それから「小さなものでクオリティが高いものを建てたい」と思うようになりました。その辺が辰さんとマッチングするのかな、と思っています。

一辰とは、社長の森村の飛び込み営業でおつきあいが始まったとか。

桑原:そうそう(笑)、たまたま渋谷3丁目のお知らせ看板でね。「もう決まっていますけど、今度機会があったら」ということで、新宿のM邸改修工事をやってもらった。

—マンションの2フロアの改修工事。うちの社会的任務みたいなものですね、適度に小さい物件。

桑原:コストの面でもみんな苦労しますよね。そこの折り合いをつけるのがジレンマですね。作りたい住宅はあるのだけど、お金がかかりすぎて・・ということもある。

—そういう意味では、個人の昔の普請道楽のような方は減りましたよね。例えばIT新進企業の役員の方は、お金持ちで高層マンションの一室に住んでいても、一戸建てを建てて・・という感覚はなくなっているようです。

桑原:住宅に対して、期待度というのはさほどなかったりするかもしれませんが。実は住宅に何を求めるかという、「いい住宅とは何か」という議論もちらんわかるんですが、昔とはもう全然違う状況になっている。住宅の滞在時間は都市部では低いじゃないですか。どうしても、都心では賃貸で身軽に移れる方が楽。例えば僕はわりと家にいる方だけど、それだって決して長くはないですよ。うちの奥さんも娘も全然家にいないです。サラリーマン並みに、朝出かけて夕方5時に帰ってくる。専業主婦ですが、子供の習い事とかお付き合いで忙しい。そういう人は多いのではないですか。

—私もそうでした。子供とずっと家にいるなんてストレスがたまりません。

桑原:住宅でも「なんとなくねぐらがあればいい」という時期がある。ほんとに自分の満足いく住宅を求める世代というのはもっとお年寄りですね。家での滞在期間が長い人たちになります。僕ら以上の年代、50歳以上ですね。

今の若い世代は経済的にも大変だし、年取ってからもっと田舎で家を持った方がいいと思うんです。僕自身よいと思っているのは、長野。はるかに安い値段で十分。都心はねぐらと考えればいい、長野でなくても千葉でもいいのですが、郊外の空気のいいところで過ごすというのが夢ですね。実践したいし、そういうことを人にも提案したいと考えている。

—そうですね、桑原先生はご自分のHPでも、自分の生活を建築家として反映させたい、とおっしゃっています。

桑原:一つには、設計というのはハードな部分ですが、ソフトな部分、もっと生活とかライフスタイルの嗜好性のデザインという部分があるわけで、生活

をデザインしていかざるを得ない。生活のデザインという意味で自分に「貯蓄」は必要です。お金じゃないですよ。「経験」ですね。

—桑原さん自身毎年海外に行って刺激を受けて帰ってくるようにしていらしゃいますね。

桑原:今はまだ子供が小さいので開かれた場所にしか行っていませんが、そのうちアルプス縦走するのが夢ですね。僕は、大学時代山登りをしていたので「移動する」ことはほんとに抵抗ないんですよ。若い頃は年間3分の1は山にいて、日本の高い山にはほとんど登りましたね。冬なんかおもしろいですよ。建築の学生って課題があるから忙しいでしょう。でも提出期限があってもその前の土日に山に行く計画があれば、僕は絶対に行くんです。そのために、前もってスケジュールを立てる。行くためにはどうすればいいかを必死に考える。僕の1週間というのは、山登りのための2泊3日を引いた4日間が実働時間でした。ですから、課題提出まで3週間あったら、12日間というのが与えられた日程。その締め切りに対しては、絶対に遅れないと決めていた。人によっては、いつまでもやっている人がいますが・・。僕は絶対に終わらせる。

—はー、立派ですね。

桑原:山に行く往復の電車の中も考える時間に当てていました。

—私など忙しさがって「趣味の時間も持てない」という言い訳をしてしまいがちですが、結局自分の時間をどうコントロールするかですね。

桑原:時間を自己管理することが生活をデザインすることなんです。

—宣言されるから、周りも納得するしかない。

桑原:まあ、ぎりぎりになって宣言することもあります(笑)。こういう具合に「自分の時間を管理する」ということを山を通してやってきました。それから「山」と言っても、僕は120%楽しまないと帰ってこないんですよ。例えば冬は、クライミングでしょう。それなりに装備を持っていくんですよ。でも吹雪で天候が悪くて、現実には冬の間はほとんど登れない。それじゃつまらないからあらかじめスキーを持っていく。で結局冬山に行って4回のうち3回はスキーやって帰ってくる。絶対に損しないようにいろんな計画を立てるんです。だから建築でもそうなんです。「絶対にこうじゃなくちゃならない」とはあまり思わなくて、「こうだったらこう」「そうじゃなくてこうだったらこう」と結構変更に対処しちゃう。よく器用だと言われるのですが、自分で楽しむために柔軟に受け止める、ということがなんとなく身につけていますね。

—何か「営業力」というか、先生はわりと難しいお客さんともトラブルがない、そういう柔軟性がコミュニケーション能力とも言うべき部分と感じます。

桑原:意識していないところでそういう部分はあるかもしれない。人間関係の読みという部分はあるじゃないですか。不器用な人っていきなり直接的にぶつかってしまうでしょ。人によってやり方が違うんですが、お客さんだって、自分と全然違う人間ですからね。

この冬は志賀高原に10日くらいいたのですが、あそこはIT環境がスキー場全体に整備されていて、たとえ自分の宿泊したホテルでなくても、すべて無料でインターネットができる。だからパソコンさえ持ち歩いていれば、僕なんか指一本で設計ができるから、仕事できちゃう。必要なこともメールで連絡を取りあえるし、もちろん現場は生ものだから確認しなくちゃいけない場合もあるけど、四六時中というわけではない。この商売を選んでよかったな、と思いましたよ。そのうち「住所不定建築家」とか言われるようになっていってね(笑)。3000mの高山でも電話がかかってきて、仕事はできちゃう、そんなことも起こりえる時代です。だからいい時代をもっと生活に前向きに使いたい、それが「デザイン」ということだと思うんですよ。「良くなっていく」ということで満足するというより、自分の中でどういう潤いがあるか、よく自分で選んで時間を有効に使っていききたいと思いますね。

—どうもありがとうございました。

「職人と監督」

株式会社横田工業
代表取締役社長

横田光弘氏

今月は、左官業の株式会社横田工業さんを訪れました。
 一横田さんは、うちの会社とは古いお付き合いですね。
 横田:そうですね、森村社長が、前の会社に入った頃からですね。ちょうど昭和55年頃、打ち放しのコンクリートの建物が出始めた頃でした。
 一左官屋さんという、土壁とすぐイメージします。
 横田:いや、壁の仕上げ仕事だけでなく、建物の下地や、コンクリートの豆板の補修などいろいろな作業がありますよ。今は仕上げ仕事そのものは少なくなっています。
 一ご自宅兼会社事務所のこの建物の外壁は、きれいな漆喰ですね。もちろん横田さんのお仕事ですね。
 横田:そうです。今はゼネコンで7社くらいとお付き合いがありますが、辰さんの仕事多いですね。難しい仕事が多いので、若い職人には勉強になりますよ。辰さんで「初めてこんな仕事をした」と言う者もいます。
 一デザインに凝る方のお宅もありますからね。
 横田:こだわりのあるお客さんも多いし、設計屋さんもむずかしい設計をしてくる。現代的な建物が多く勉強になります。打ち放しのコンクリートなんて、大手のゼネコンと比べてもあんなきれいなコンクリートを打っているところはほとんどないですよ。
 一ありがとうございます。



横田社長と奥様 自宅の前で。
きれいな外壁は社長自身が塗り上げたもの。



塗り壁の仕上げ見本。品川の現場にて。



作業中の職人さん。
作業は腰がポイント。

横田:こないだも、辰さんの現場で凝った風呂場のタイルの下地をやりましたが、輸入物の小さなタイルでしょ。納まりなど下地が命だから細かい作業で大変でした。それからリビングの壁が全部漆喰の仕上げで、それも面積が広がって結構な量でしたよ。見せる部分だから気合も入る。
 辰さんの仕事が順調なのは、現場監督がきちんとしているからいい仕事ができるんですよ。
 一若い新人は、職人さんに教えてもらわなくてはならないこともあるようです。うちの現場監督は優しい人が多いという声も聞こえてきます。
 横田:でも、僕は職人に言っているんだけど、こちらが60歳を過ぎていようが、現場の監督をつかまえて「おーい、〇〇。ゴミ持っていってくれ」と呼び捨てにしたらだめです。あちこちにいるんですよ、そういう職人。ほかの現場でね。でも現場の基本ですからそこから始めなくちゃ。職人はみんな技術的には100点だから、言葉づかいとか、礼儀とかそれはきちんとしなくては。それが守れなければだめですよ。職人も職種によって柄が悪いのがあるからね(笑)。土方とか左官、鉄筋屋とか型枠大工。この4つは昔から気が荒いね。気が強くないとやっていけないところがある。

一左官屋、入っているじゃないですか(笑)。
 横田:そうだよ。鳶もだね。昔は酒飲んで現場に来るような猛者もいた。でもさすがに最近はそのうのは減ったね。現場の管理もうさくなったから、10年くらい前からはもうほんとにそういう人はいなくなった。そんなのは「明日から現場に来なくていい」と言われるからね。ある意味会社員みたいに、5時には上がっちゃう。それに比べると、辰さんの現場監督、夜晩くまで仕事しているね。FAXが10時とか11時に来るんでびっくりしちゃう。
 一現場が終わってから、仕事をまとめていますからね。
 横田:でも会社がどんどん伸びている。頑張っているなと感心します。監督業も大変ですが、若い人もどんどん人間的に成長してほしいですね。人を指導する立場というのは、やはり技術だけでなく、人の心を読むことが大切ですから。それがいい仕事につながるんですよ。
 一ほんとにそうですね。どうもありがとうございました。

TOPICS/INFORMATION

「ハツ山のSOHO住宅 見学会」のお知らせ 4月3日 品川区

ビルの最上階の1室が、SOHOタイプの住宅に生まれ変わりました。オーナーのご好意により、このたび見学会を開かせていただくことになりました。広々とした室内、こだわりのキッチンやバスルームをどうぞご覧ください。

企画・設計監理: 岩田伸一郎建築設計事務所

※オーナーがすでに入居されているため予約制とさせていただきます。見学ご希望の方は、3月31日までにメールかお電話でお申し込みください。

営業部 E&Dチーム: 松村、谷貝、江崎
E-mail: info@esna.co.jp
電話: 03-3486-1570



ごく普通のマンションが
下のようなコンクリート打ち放し
の機能的なスペースに。



「(株)辰安全衛生協力会 安全大会」のお知らせ 4月8日 17:30~ 於: 渋谷商工会館

・すでに協力業者の皆様にはご通知しておりますが、年に一度の総会です。平成16年度の活動報告、決算報告などのほか、4月から施行される「個人情報保護法」に対応すべく、今ZENグループで取得をめざしている「プライバシーマーク」についてもご説明させていただきます。今年も協力業者の皆様とともに、現場の安全管理を目指して参ります。たくさんの方のご出席をお待ち申し上げます。

編集後記

・現場最前線で訪問した横田工業の横田さんは出身が島根県。島根は左官屋さんが多いので有名だそうです。「石州左官」「石州大工」といえば、優秀さの代名詞。鏝絵など優れた左官芸術も見ることができます。

